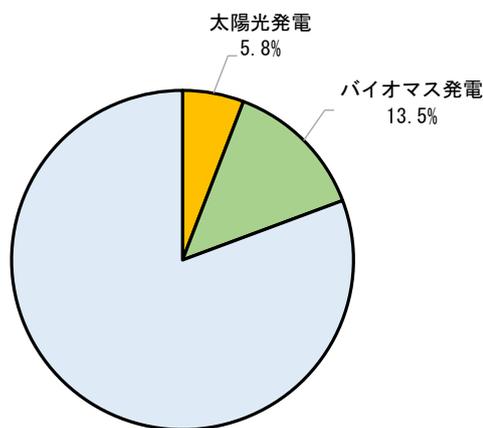


第3節 分野別の現状と課題

3-1 新エネルギー

本市における新エネルギー等発電自給率は2018（平成30）年度で19.3%であり、そのうち太陽光発電による発電割合が5.8%、バイオマス発電による発電割合は13.5%です。

太陽光発電やバイオマス発電、小水力発電などの新エネルギーの導入による市域の新エネルギーの発電自給率の向上は、電力の使用による二酸化炭素の排出抑制につながります。また、石油や都市ガスなどの燃料の使用量削減にもつながることから、新エネルギーの導入促進は重要な取組ですが、系統の空き容量不足による出力制御などの課題が生じており、自家消費型の新エネルギーの導入を進めていく必要があります。



◆2018年度 新エネルギー発電割合

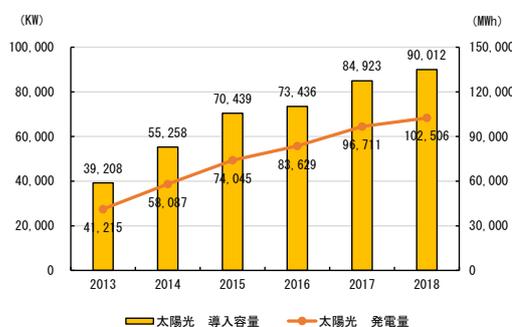
●太陽光

本市は、晴天や冬季の日照時間の多い地域であり、年間2,000時間を超える全国有数の日照時間を有しているため、太陽光発電の導入が効果的です。

太陽光発電の導入容量及び発電量は増加傾向にあり、2018（平成30）年度における導入容量は90,012kW、発電量は102,506MWhです。

市域における電力使用量は2017（平成29）年度で12,944,195MWhであるため、今後も太陽光発電の導入促進を図っていく必要があります。

また、今後は固定買取制度の買取期間の終了などにより、新規の太陽光発電の導入量の停滞が想定されるため、太陽光発電の導入促進について取組む必要があります。



◆太陽光発電導入状況及び発電量